

IMV CORPORATION

2007年9月期 決算説明資料

2007年11月29日



決算概要と主要アクション



決算概要

- 全社売上は前期比165百万円の増収となりましたが、期首予想を731百万円下回る5,118百万円となりました。
- 売上が計画を下回った影響及び人材投資(前期比128百万円増加)・研究開発投資(前期比111百万円増加)等による戦略的費用負担の増加により、経常利益は前期比275百万円減益の333百万円、当期純利益は前期比127百万円減益の201百万円となりました。

主要アクション

- 2007年9月の名古屋テストラボの開設により、東名阪の3テストラボ体制を確立しました。
- オールウェザー対応のチャンバー(恒温恒湿槽)の内製化を開始。22台納入し、チャンバーの内製化率3割を実現。併せて、このクラスでは世界初となる小型試験機との複合用チャンバー及びマイグレーションテスト用チャンバーを開発しました。
- 東京工場にあったメジャリングシステムの研究開発機能及び製造機能を大阪に集約。今後の拡大路線のための布石を打ちました。
- 人員増強など積極的な海外事業展開を行いました。その結果、ロシアおよびインドの現地ディーラーと販売契約を締結し、アメリカへ初の3軸同時シミュレーターを納入しました。
- マーケティング及び販売力強化を目的に営業企画部を新設し、コーポレートロゴの変更、ショールームの開設、代理店政策の強化等を実施しました。また、事業開発・製品開発の強化を目的に技術企画部を新設しました。

代表取締役の異動について



役職 (現職)	代表取締役会長 (代表取締役会長兼社長)	代表取締役社長 (常務執行役員)
		
氏名	小嶋成夫 (こじま しげお)	岡本二郎 (おかもと じろう)

※本件異動につきましては、平成19年12月19日開催の当社第61期定時株主総会及びその後の取締役会決議において正式に決定する予定です。

- 当社は、現代表取締役会長兼社長小嶋成夫のもと会社更生及びジャスダック市場への上場を果たし事業成長を続けてまいりましたが、今後の更なる飛躍のために経営体制の一層の充実と強化を図るべく、新代表取締役社長を選任することとなりました。小嶋成夫は社長を退任いたしますが、今後も会長として当社の経営に重要な役割を担い続けます。今後は新社長岡本二郎が全社的な経営の執行にあたることで事業戦略の遂行を加速させ、一層の発展を目指してまいります。

決算概要(連結数値)



(単位:百万円)

	07/9期 実績	06/9期 実績	増減額	増減率	07/9期 期首予想	増減率
売上高	5,118	4,953	+165	+3.3%	5,850	△12.5%
営業利益 (営業利益率)	249 (4.9%)	549 (11.1%)	△300	△54.6%	605 (10.3%)	△58.8%
経常利益 (経常利益率)	333 (6.5%)	609 (12.3%)	△275	△45.3%	711 (12.2%)	△53.2%
当期純利益 (当期純利益率)	201 (3.9%)	329 (6.7%)	△127	△38.8%	463 (7.9%)	△56.4%
設備投資額	899	204	+694	+340.1%	1,099	△18.2%
減価償却費	257	278	△20	△7.4%	267	△3.6%
研究開発費	207	96	+111	+115.7%	124	+66.2%
従業員数※	213	191	+22	+11.5%	213	—

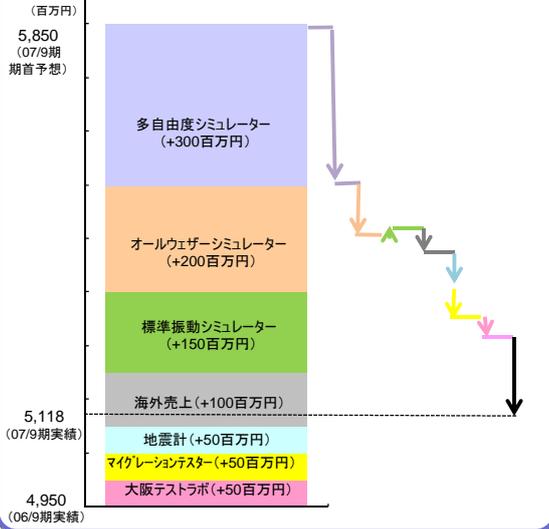
※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

さらなる事業成長のために人材投資(前期比128百万円増加)・研究開発投資(前期比111百万円増加)等を積極的に推進したことにより固定費が増加したため、経常利益は前期比275百万円減益の333百万円、当期純利益は前期比127百万円減益の201百万円となりました。

売上差異要因分析



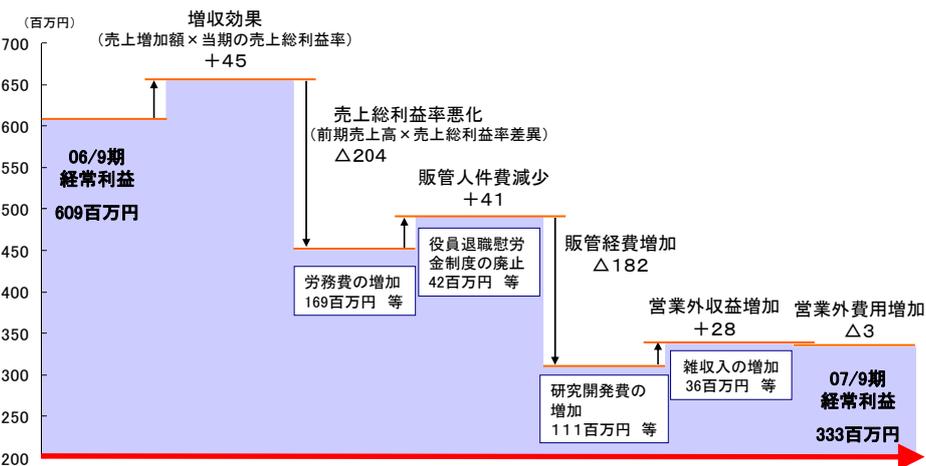
予算策定時の売上追加要因と実績推移



結果

- 予定していた大型案件が遅延し前年レベルの売上に留まる
- チャンバー内製化により1億円の増収となるも、大型製品の減少で計画未達
- 大型試験機の貢献もあり見込み通りに推移
- 現地代理店網の整備に注力するも、本格的な収益貢献は来期以降
- 製品移管の影響によりMIG・地震計とも前年割れ
- 概ね見込み通りに推移

経常利益増減要因分析(連結)



07年9月期の連結経常利益は、増収効果、販管人件費の減少、営業外損益の増益がありました。技術者増員による労務費の増加などに伴う売上総利益率の悪化や、新製品の研究開発費などによる販管経費の増加があり、前年同期比275百万円減収の333百万円となりました。

受注の状況



過去最高の期末受注残高



下期の受注が堅調であったことにより当期の受注高は5,476百万円(対前期比3.9%増)、期末受注残高は1,671百万円(対前期比27.3%増)となりました。

連結貸借対照表の概要



(単位:百万円)

	07/9期末	06/9期末	増減額		07/9期末	06/9期末	増減額
流動資産	3,706	3,925	△219	流動負債	3,302	2,946	+356
現金預金	218	498	△279	仕入債務	1,569	1,224	+344
売上債権	2,263	2,481	△218	短期有利子負債	1,247	1,053	+193
棚卸資産	951	700	+250	其他流動負債	485	667	△181
其他流動資産	272	244	+27	固定負債	2,136	2,016	+119
固定資産	4,071	3,297	+774	長期有利子負債	1,781	1,614	+166
有形固定資産	3,314	2,696	+618	其他固定負債	355	402	△47
無形固定資産	84	67	+17	負債合計	5,438	4,962	+475
投資其他資産	672	533	+138	純資産合計	2,339	2,260	+78
資産合計	7,777	7,223	+554	負債・純資産合計	7,777	7,223	+554

資産の部 : 期末に名古屋テストラボ建設費用を支払ったため現金預金が279百万円減少したことにより流動資産が219百万円減少しました。また、名古屋テストラボ建設に伴い土地(196百万円)及び建物(270百万円)等が増加したことにより、固定資産が774百万円増加しました。

負債の部 : 期末受注残高増加の影響により仕入債務が344百万円増加したため流動負債は356百万円増加しました。名古屋テストラボ建設に伴う長期借入れにより長期有利子負債が166百万円増加したため固定負債が119百万円増加しました。

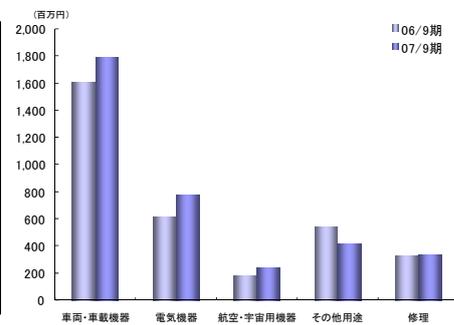
純資産の部 : 未処分利益の増加により利益剰余金が78百万円増加しました。

振動シミュレーションシステム ～概況～



(単位:百万円)

	07/9期	06/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	1,797	1,609	+188	+11.7%
電気機器向け	779	614	+164	+26.9%
航空・宇宙用機器向け	240	182	+58	+32.2%
その他用途向け	415	543	△128	△23.5%
修理	339	332	+6	+2.0%
合計	3,572	3,281	+291	+8.9%



- 既存設備の更新需要が活発であり、前期比291百万円増収の3,572百万円となりました。
- オールウェザーシミュレーションシステムが、自動車関連産業や航空宇宙関連産業中心に堅調に推移しました。また、オールウェザー対応のチャンバー(恒温恒湿槽)の内製化を開始し通算22台納入いたしました。(内製化率3割)
- 小型で低騒音な振動シミュレーター「mシリーズ」を07年3月に発売。オプションとして、このクラスでは世界初となる複合試験用チャンバーを開発し、複合機として情報通信関連企業に納入いたしました。
- 新規導入案件や増設案件につきましては、前期にも見られた顧客の設置場所不足が慢性化する傾向にありますが、下期からは受注につながる案件が増加しており、事業環境は改善しつつあると認識しております。



小型振動シミュレーター「mシリーズ」

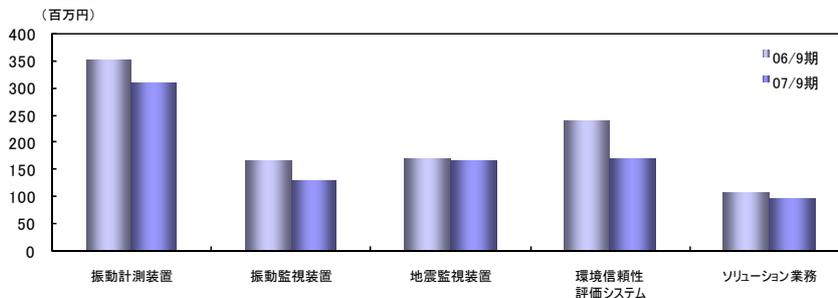
メジャリングシステム ～概況～



(単位:百万円)

	07/9期	06/9期	増減額	増減率
振動計測装置	308	350	△42	△12.0%
振動監視装置	129	166	△36	△22.2%
地震監視装置	167	169	△1	△1.1%
環境信頼性評価システム (マイグレーションテスト)	168	238	△69	△29.3%
ソリューション業務	97	106	△9	△8.6%
その他・修理	134	110	+23	+21.1%
合計	1,005	1,141	△136	△11.9%

- 研究開発機能・生産機能を大阪に集約することで、開発体制の強化及び生産の効率化を図りましたが、移管に伴い一時的に技術者による営業支援が低下したことにより、売上高は前期比136百万円減収の1,005百万円となりました。
- 小型複合試験機チャンバーを応用し、マイグレーションテスト用チャンバーを開発しました。
- ソリューション部門では、問題解決業務を通じて得た顧客ニーズをもとに、多チャンネル計測・解析装置の開発に注力しました。

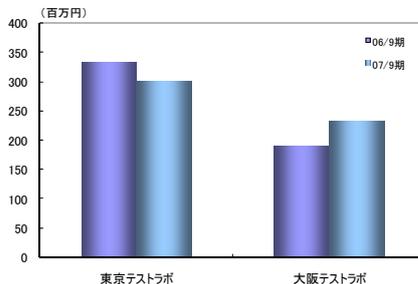


テスト&ソリューションサービス ～概況～



(単位: 百万円)

	07/9期	06/9期	増減額	増減率
東京テストラボ	300	334	△34	△10.2%
大阪テストラボ	232	190	+41	+21.8%
子会社外部売上	7	4	+2	+70.9%
合計	540	529	+10	+2.0%



- 設備導入が一巡した大阪テストラボが本格的に貢献し、前期比10百万円増収の540百万円となりました。
- 設備を増強した大阪テストラボでは、鉄道車両関連需要が好調に推移し、41百万円の増収となりました。
- 大阪テストラボに設備予定の鉄道車両向け試験設備につきましては、仕様の一部見直しを行っておりますが、引き続き早期の設備導入を目指してまいります。
- 2007年9月に国内最大級の専用施設として名古屋テストラボを開設いたしました。
- 東京テストラボでは、自動車関連企業の受託試験を大阪テストラボに一部移管したことや電力関連の大型試験が期中に終了した影響もあり、34百万円の減収となりました。

研究開発の動向



環境・エネルギー問題の解決へ向けて

- ・蓄積疲労振動試験システム「K2 FATIGUE」(特許出願中) 2007年11月26日リリース
- ・インテリジェント・システム・マネジメント技術

振動専門メーカーからの脱却

- ・次世代イオンマイグレーションテスター
- ・単体販売が可能なチャンバー(恒温恒湿槽)の開発

試験加速とオンデマンド・リコメンデーション

- ・多軸振動シミュレーションシステム
- ・オールウェザーシミュレーションシステム
- ・テーラリング

海外戦略の動向



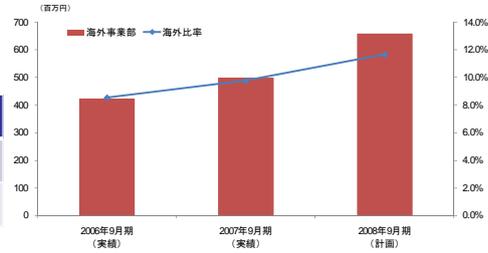
東南アジア中心→グローバルへ

【海外営業担当人員増員】

2006年3月末 3名 → 2007年9月末 5名

【海外比率向上】

	2006年9月期 (実績)	2007年9月期 (実績)	2008年9月期 (計画)
海外比率	8.6%	9.8%	11.7%
海外事業部	423百万円	500百万円	660百万円



【CEマーキング取得】

欧州への事業展開に向け、まず標準製品の取得を目指す (2008年9月期上期予定)

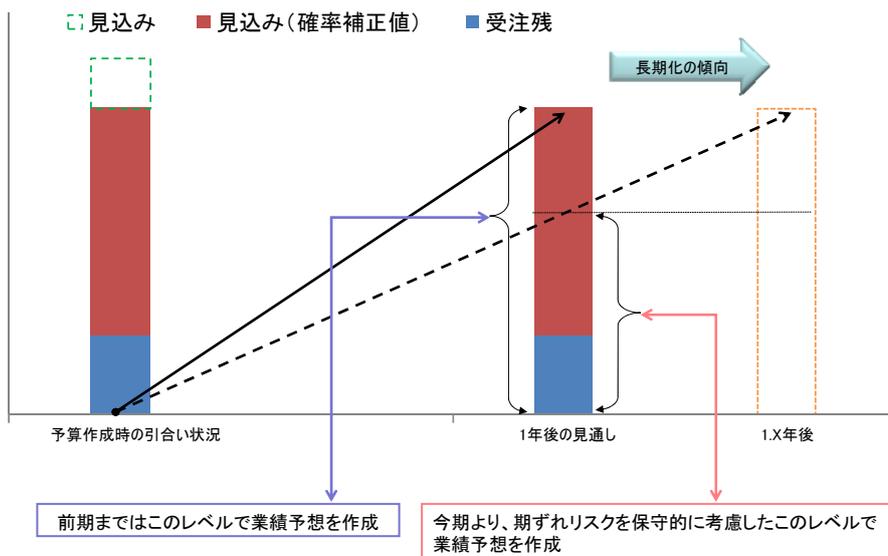
【BRICs/VISTA市場への先行PR】

現地企業への拡販を目指し、ロシア/インドの現地ディーラーと販売契約締結

【東南アジアへの拡販強化】

自動車業界など日系企業のR&D拠点移管増加に伴い営業強化

売上予算作成のイメージ



通期業績見通し(連結概要)



(単位:百万円)

	08/9期予想	07/9期実績	成長率
売上高	5,654	5,118	+10.5%
営業利益 (営業利益率)	415 (7.3%)	249 (4.9%)	+66.4%
経常利益 (経常利益率)	424 (7.5%)	333 (6.5%)	+27.4%
当期純利益 (当期利益率)	257 (4.5%)	201 (3.9%)	+27.3%
設備投資	293	899	△67.4%
減価償却費	260	257	+1.1%
研究開発費	213	207	+2.8%
従業員数※	223	213	—
1株当たり当期純利益	15.25円	11.97円	+27.4%
1株当たり配当金※	6.0円	5.0円	—

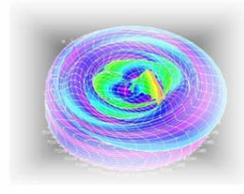
- 振動シミュレーションシステム販売の増加(国内1億円、海外2億円)および名古屋テストラボの貢献(2億円)などを見込み5,654百万円と予想しております。
- 収益性の高いテストラボ事業の増収と人員計画の見直しによるコストダウンにより営業利益は415百万円、経常利益424百万円、当期純利益257百万円と予想しております。
- 名古屋テストラボ向け追加設備として140百万円を予定しております。
- 研究開発活動は、次世代制御器、電力増幅器など継続案件のフォロー及び地震計やマイグレーションテスターの新製品開発を予定しています。
- 人員計画については、非正規社員数を見直しつつ、正社員についても必要最低限の増員にとどめ10名の増員を予定しております。
- 配当政策を変更し、安定配当部分として4円を維持しつつ、配当性向目標を40%と設定しており、一株当たりの配当金については6.0円と予定しております。

※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※07/9期の配当金につきましては、2007年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

Copyright © IMV CORPORATION 2007 All right reserved

14



中期事業計画

新PRESTO 2010

(2008年9月期～2010年9月期)



実行性の高い計画へ

現状の業績推移について真摯に受け止め、現行中期事業計画「PRESTO 2008」をローリングし、より実行性の高い計画として新中期事業計画「新PRESTO 2010」を策定いたしました。計画達成に向け全社一丸となって邁進してまいります。

策定方針

基本戦略として下記5項目を設定しております。

- ①経営資源の最適化 ②周辺領域の技術開拓と水平統合 ③技術基盤の強化
- ④顧客開拓と基盤強化 ⑤計画中心の製造力強化

連結数値目標としては最終年度の2010年9月期において売上高68億5,400万円、売上高対経常利益率12.2%、輸出比率13.6%としております。

それらを実現するための機能戦略、事業戦略を遅滞なく実行することで、総合環境シミュレーション業界のリーディングカンパニーとして持続的な成長を実現してまいります。

数値目標(連結)と配当政策

数値目標(連結)

(単位:百万円)

	07/9期実績	08/9期計画	09/9期計画	10/9計画
売上	5,118	5,654	6,154	6,854
経常利益率	6.5%	7.5%	10.1%	12.2%
輸出比率	8.0%	11.7%	13.3%	13.6%

配当政策

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続して配当を実施することを基本方針としております。

具体的には、2007年9月期の通常配当と同額の4円を安定配当部分として業績に関わらず維持しつつ、業績に応じて株主の皆様へ還元できるよう連結配当性向目標を40%と設定いたします。



SECURE THE FUTURE

～IMVが見守る未来～

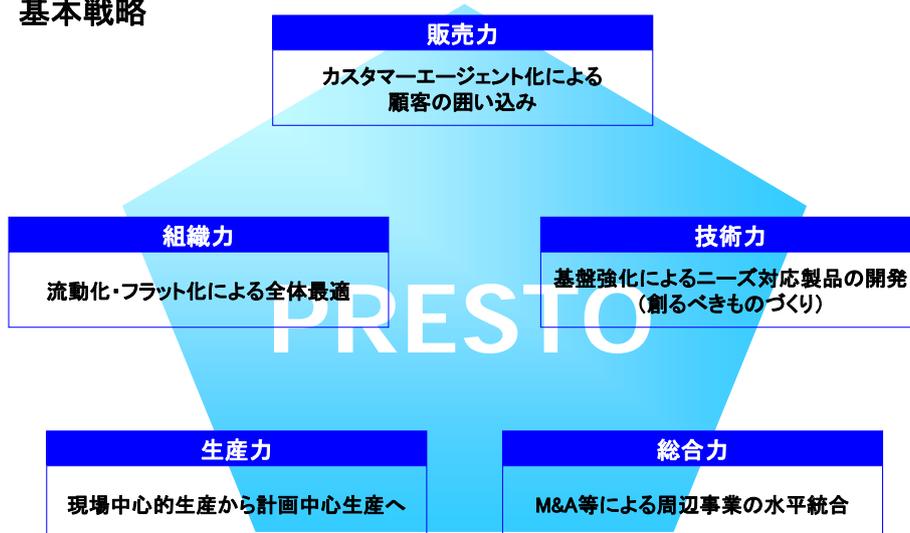
FIRST Choice for our Partners

- Future 安全を見つめて未来の社会に貢献します
- Integrity 誠実で開かれたパートナーシップを大切にします
- Reliability 製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます
- Strength 振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します
- Technology 顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します

中期事業計画の概要



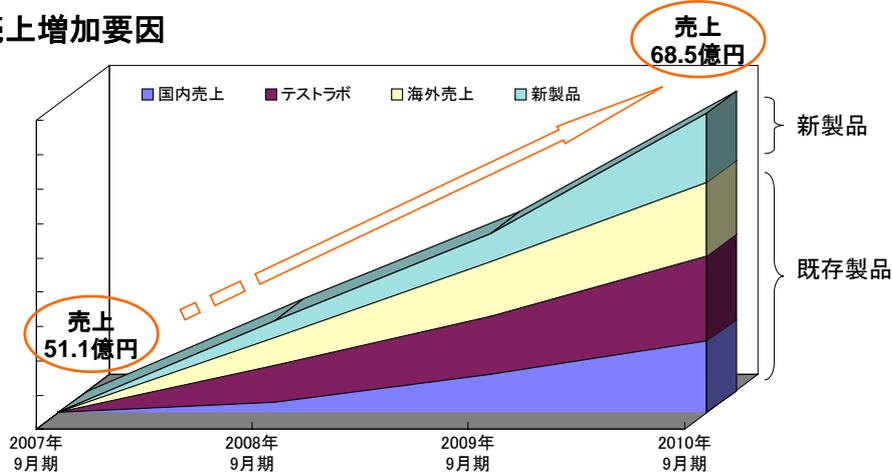
基本戦略



成長のイメージ



売上増加要因



- ・新製品の積極投入により売上増加を目指します。
- ・海外展開は既存のアジア地区に留まらず、ロシアやインドからの受注増加に向けて営業活動を強化すると共に、新たな動きが出始めた北米地域での顧客動向に注視します。
- ・テストラボ事業は名古屋テストラボの成長を促進すると共に、鉄道車両関連試験需要を取り込みます。
- ・既存製品は営業力強化と高付加価値化により市場シェアを高めます。

個別戦略 (振動シミュレーションシステム)



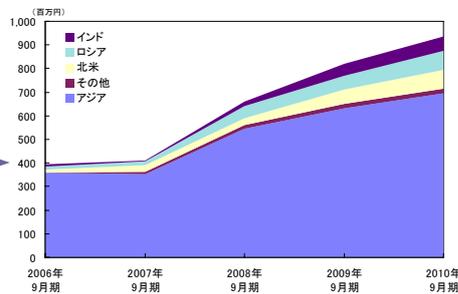
国内: 市場シェアの向上

- ・営業人員の増強
- ・代理店政策の強化
- ・新製品の投入

- ・顧客接点の向上
- ・ターゲット顧客の攻略

海外: 新規市場の開拓

- ・アジア中心からグローバルへ
- ・CEマーキングの取得
- ・現地代理店網の整備



生産: 生産力の強化

- ・チャンパー内製化推進
- ・計画中心主義
- ・パートナーとの協業

- ・コスト競争力/技術競争力強化
- ・リードタイムの短縮
- ・棚卸資産の削減

個別戦略(メジャリングシステム)



新製品の早期市場投入

地震計	イオンマイグレーション テスター(MIG)	その他
<ul style="list-style-type: none"> 計測震度計 (気象庁認定) 緊急地震速報対応製品 	<ul style="list-style-type: none"> インピーダンス方式MIG 自動車関連業界向け 高電圧MIG ハイサイド測定MIG 	<ul style="list-style-type: none"> 新型携帯振動計 新型輸送環境記録計 多チャンネル計測/ 解析装置

ソリューション事業の強化

● ソリューション事業とは
お客様の振動に係るあらゆる問題を解決をする業務です。
例えば、建物の耐震性評価やエンジン音の振動異音解析
といった活動を実施しています。



ビルの耐震性評価



データ収録風景

- 人員増強
- 他企業とのコラボレーション
- 顧客ニーズの蓄積



- 問題解決業務の成長
- 計測/解析装置の開発強化

個別戦略(テスト&ソリューションサービス)



名古屋テストラボの垂直立ち上げ

- 初年度売上目標 2億2,000万円
- 設備導入計画 自動車業界の需要が多いオールウェザータイプを中心に導入
07/9期:5台 08/9期:9台 09/9期:3台 合計17台を導入予定
- 認知度向上計画 併せて移転した名古屋営業所との相乗効果を追求
オープンから1ヶ月間で100名以上が施設見学会に参加



名古屋テストラボ外観



大型オールウェザー
シミュレーター



3軸同時オールウェザー
シミュレーター

鉄道関連向け試験の強化

- 国際試験規格高度化に伴う試験需要増加に対応
- 大阪テストラボに専用試験設備を導入予定

ありがとうございました

代表取締役会長兼社長 小嶋 成夫

常務執行役員 岡本 二郎

お問合せ先

IR窓口 経営戦略企画部・IR担当 大和

TEL: 06-6478-2565 FAX: 06-6478-2567

E-MAIL: imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

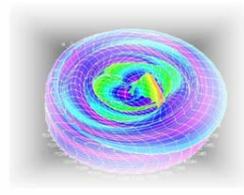
○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

24



IMV CORPORATION

ご参考資料

2007年11月29日



会社概要(2007年9月期:連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)
証券コード : 7760 (ジャスダック証券取引所/精密機器)
設 立 : 1957年4月17日
事業概要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売
及びテスト&ソリューションサービスの提供
代 表 者 : 代表取締役会長兼社長 小嶋 成夫
売 上 高 : 5,118百万円
経 常 利 益 : 333百万円
資 本 金 : 464百万円
従 業 員 数 : 213人 (56名の期中平均臨時従業員含む)
本社所在地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10
(本社/R&Dセンター/大阪工場/東京工場/東京各営業所/海外事業部
/大阪営業所/名古屋営業所/東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

沿革 ~会社更生法からの再建



- 1957年 4月 株式会社国際機械振動研究所を設立
- 1974年 10月 会社更生法を大阪地裁へ申請
小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
- 1985年 7月 残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
- 1994年 9月 日東精機(株)(現連結子会社)を100%子会社化
- 1998年 4月 国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
- 2005年 5月 本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
- 2005年 6月 大阪テストラボ開設
- 2005年 7月 ジャスダック証券取引所に上場
- 2007年 2月 大阪にショールーム開設
- 2007年 4月 会社設立50周年
- 2007年 9月 名古屋テストラボ開設

IMVの3つの事業



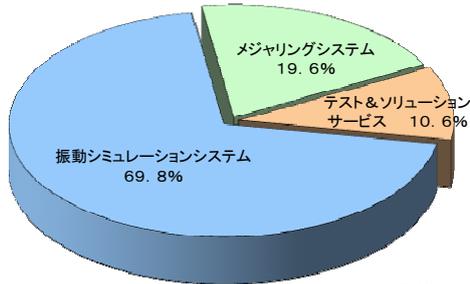
振動を再現する 振動シミュレーションシステム

振動環境を再現し、振動に対する耐振性及び改良の必要性等を評価、判定するための試験装置です。振動以外の環境因子との複合試験にも用途は拡大しています。動電式システムで国内シェアNo1に位置します。



振動を計測する メジャリングシステム

工業製品、設備機械、建築物などに発生している振動を監視し、データとして収録後、解析処理する装置です。設備の劣化診断、地震災害時の設備緊急制御等に用いられます。充実の製品ラインナップで顧客ニーズに応えています。



(2007年9月期連結)

振動問題を解決する テスト&ソリューションサービス

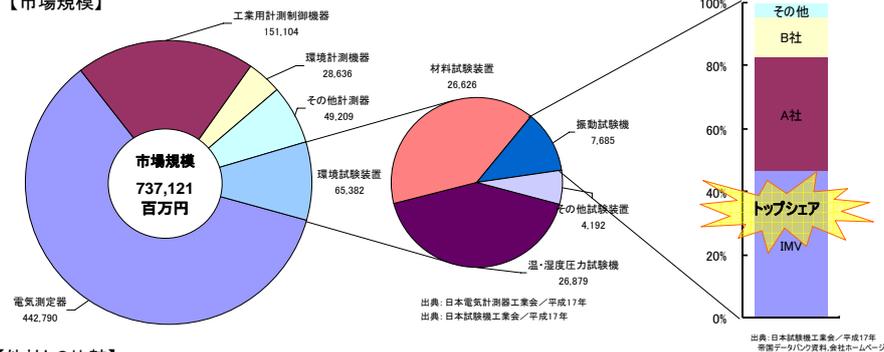
設備や試験ノウハウを持たない顧客からの要請を受け、振動試験の受託やコンサルティング等を実施しています。様々な顧客ニーズの取り込みを図っており、サイトの増設、サービスメニューの拡大に取り組んでいる成長分野です。



マーケットの状況 ~国内トップシェア~



【市場規模】

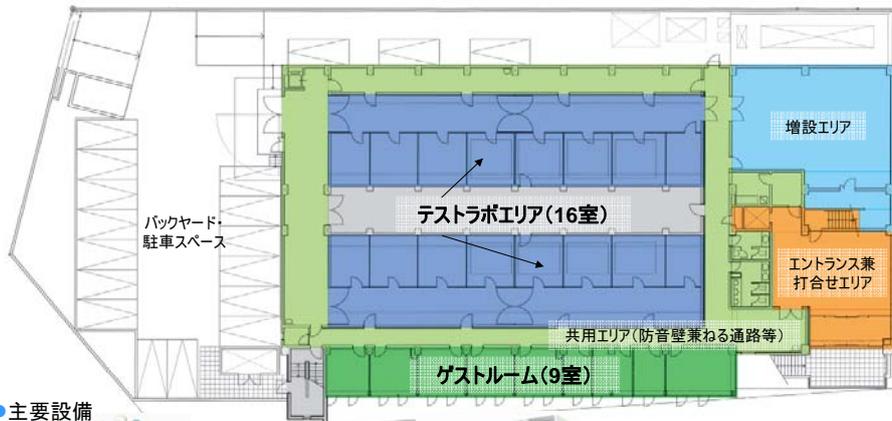


【他社との比較】

	株式	得意分野	振動シミュレーションシステム構成要素	テストラボ	計測関連
IMV	上場	フルラインナップ	全て自社製	3ヶ所	振動計測・監視装置、地震監視装置、MIG
A社	未上場	単軸・複合	他社より一部購入	1ヶ所	振動計(一部)
B社	未上場	多軸	他社より一部購入	なし	振動計(一部)

出典: 帝國データバンク資料・会社ホームページ、その他当社調査による

名古屋テストラボ



●主要設備



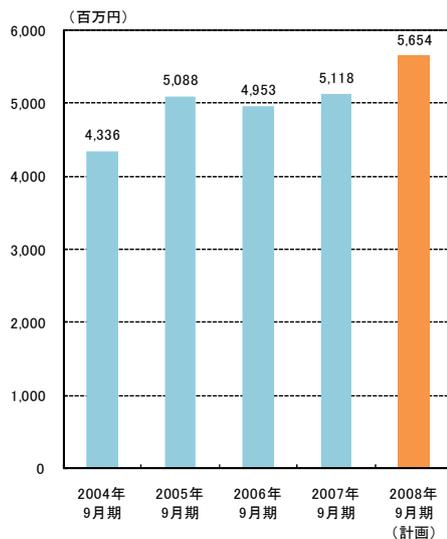
多軸オールウェザーシミュレーター 大型オールウェザーシミュレーター 単軸振動シミュレーター

- 2007年9月開設
- テストラボエリア面積約300坪
- 東名三好インター直結
- 自動車産業からの複合試験ニーズに応え、オールウェザー中心に17台の装置を設置予定

業績推移(連結)



連結売上高推移



連結経常利益推移

